

[演習用資料] 単元計画の作成について

★「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の第3編：単元ごとの学習評価の事例の中から1つを選び、まずはしっかり読み込みます。

その後、①～④の手順で事例をもとにした単元計画を作成し、指導と評価の設定の演習を行います。

※ここでは、小学校算数の「参考資料」の事例1を使って手順を例示しています。

① 事例にある【単元の目標】を記載します。
教科によっては、3つの資質・能力を1つの能力文にして目標を立てているものもあります。

② 事例にある【単元の評価規準】を記載します。
枠は各自が選択した事例に合わせて柔軟に加工してください。

の指導計画(例)		小学校第3学年 算数「あまりのある除法」(全10時間)		
※単元の展開計画と単元の評価計画を合わせたものが、単元の指導計画です。				
単元の目標		単元の評価規準		
<p>(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。</p> <p>(2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。</p> <p>(3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。</p>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。	
	② 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。	② 余りのある除法の場面に応じて考えている。	② 除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えようとしている。	
	③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。			

[演習用資料] 単元計画の作成について

③ 「単元の指導と評価の計画」を見ながら、単元の時間とその時間の展開計画（教科によっては、目標・ねらい・学習活動等で記載）を記載します。

枠は各自が選択した事例に合わせて柔軟に加工してください。

④ 「単元の評価計画」を記載します。単元の展開（学習活動）に併せて、どの観点の評価を、どんな方法で見取るかを記載します。

枠は各自が選択した事例に合わせて柔軟に加工してください。

時	単元の展開計画	単元の評価計画	
	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。（包含除）		・思①(行動観察、ノート分析) ・態①(行動観察、ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や余りなどの用語の意味を知る。	・知① (ノート分析)	
3	余りと除数の関係を理解する	・知③ (ノート分析)	
4	等分除の場面について、 場面の除法が適用できるかを考える。		○思①(行動観察、ノート分析)
5	割り切れない場合の除法計算について、答えの求め方を知る。	・知② (ノート分析)	
6	実際の場面当てはめたときに、 をどのように解釈すればよ を考える。		・思①(行動観察、ノート分析) ○態①(行動観察、ノート分析)
	学習内容の定着を確認する章末問題に取り組む。	・知①②③ (ノート分析)	
9	単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。（評価テスト）	○知①②③ (ペーパーテスト)	○思② (ペーパーテスト)
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。		○態② (ノート分析)

※指導の改善に生かす評価の機会については「・」
※総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を記録に残すものは「○」で示している。

「指導の改善に生かす評価」とは、授業中に努力を要する児童生徒を確認し、その後の指導に生かすために行うもの。
「総括の資料とするための評価」とは、単元における観点別学習状況評価を行うため、学級全員の児童生徒の学習状況を評価して、記録に残していくもの。（指導要録や通知表の資料とする。）